

学校だより
「まんだ」
No. 4

自他を大事にする子供 学び続ける子供 共に未来を切り拓く子供



認める力

やりぬく力

表現する力

先日、ある保護者の方から「校長先生の学校だより読んでます。楽しみにしています。」と、うれしい言葉をいただきました。一人でも読んで下さる方がいれば、便りを出す甲斐があるというもの。これからも魅力ある学校だよりを書いていきたいと思ひます。

いやいや、ちょっと待って！お便りを書くのは私だけけれど、その主人公は子供たちでした。魅力ある学校だよりを書く前に、魅力ある学校を創っていかねばいけなかったのです。ですから、このお便りが学校づくりの一助になればと思っています。よろしければ、私たちの知らない子供たちの頑張りや学校の魅力を、皆様方から学校にお知らせいただけたらうれしく思ひます。皆様からの声をお子へたちにも届けたいと思ひます。

「結局、1 回も優勝しませんでした」

「結局、1 回も優勝しませんでした。」とは、運動会を終えた直後の、ある6年生の言葉。赤白2回しかない万田小の運動会で、負ける確率は1/2ですので、6回連続負けるのは、1/2の6乗=1/64。わずか1.6パーセントの確率です。貴重な経験とは言えないまでも、希少な経験であることは確かでしょう。そのことを知ってか知らずか、その6年生も、「今年も負けた」という悔しさを、「すべて負けた」というすがすがしさで打ち消しているようにも聞こえました。

ともかく、子供たちの心にながしかの感情が芽生えたのであれば、それは、学びがあったということだろうと思ひます。

私も、いろんな子供たちの姿を見ることができ、心が動く瞬間がいくつもありました。徒走の順位判定に納得のいかない様子の子供。玉入れて、投げるよりも遠くに落ちている玉を拾い集めるのに一生懸命の子供。息の合った応援団の演武。リレーのバトンパスでは、思わず早めにリードをしてしまう子供。※逃げる友達になかなかバトンを渡せない。本部テントの真ん前で、自信をもってソーラン節を披露する子供と少し照れながら踊る子供。※子供の性格にもよるなあ。子供たちの姿には、子供たちの思いが表れていて、その思いに触れることが、私たちにはとてもうれしいことだと思うのです。



たくさんの保護者、地域の方々に応援いただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、率先してテントの撤収を手伝っていただいた保護者の方々ののおかげで、片付けもスムーズでした。保護者、地域の方々の思いも受け止めながら、今後も、子供たちの健全育成に頑張っていきたいと思います。

今後どうぞよろしくお願い申し上げます。

モンシロチョウを育てよう！

3年生の理科の学習に「チョウのかんさつ」というのがあります。キャベツ農家の方からすればとんでもない話ですけど、モンシロチョウを卵から育て、観察するのです。

今日（6月2日）、理科の教員の血が騒ぎ、理科の授業にゲストティーチャーで参加しました。子供たちは、当然モンシロチョウを知っています。中には、モンシロチョウの前はさなぎ、幼虫、卵と知っている子もいます。教科書には、卵の拡大されたきれいな写真も載っています。

でも、実際に卵を探しに行くと、誰も卵を見つけることができません。最初に「校長先生、これ卵ですか？」と見せにきたのは、アオムシの糞。そうです。一番目につきます。「それは、ただの虫食いの後」「それは、草の種」「それは、アオムシの死骸」、なかなか見つけることができません。「ヒントは、キャベツの葉っぱの裏についているよ。」という、みんなキャベツの葉をひっくり返してみています。そうこうしているうちに、時間切れ。仕方がないので「校長先生が見つけてやろう。」と言って、1つ見つけてやりました。すると、2人の子が卵を見つけることができました。今年は、確かにモンシロチョウの飛んでいる数が少ないように思ひます。5月が比較的涼しかったのも影響があるのか？とも思ひてしまいます。

今日から6月。やがて水泳の授業が始まりますが、やっぱり肌寒いような。

